

# 常設展示

吉村昭は、昭和2年（1927）5月1日、東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本（現荒川区東日暮里六丁目）に生まれました。そして、昭和20年4月13日の空襲で家が焼失するまでの18年間を荒川区で過ごしました。幼少の頃から、家族の死や戦争、そして、自らも死の危険を伴う肋骨切除の手術を経験します。時代が大きく変化する中で、こうした体験は、若い吉村の脳裏に深く刻み込まれ、小説家を志す動機となりました。

吉村は、「死とはなにか」「生とはなにか」を主題に人間の本质を探究し、数多くの短篇・長篇を執筆しました。常設展示では、小説家吉村昭の生涯をさまざまな資料とともに紹介します。

